

## 地域からの 要請だけでなく 主体的に企画する スタイルに進化

ある時は小値賀島の子ども野外キャンプの手伝い。またある時は学習支援。学生たちは、いろんなボランティア活動に参加しています。「やってみゅーでスク」は、大学と地域が一緒になって学生を支援し、学生の豊かな人間性に基づく様々なスキル、例えばコミュニケーション能力、主体性、協調性などを向上させることを目的としています。なんでもやってみよう、という意味の長崎弁の「やってみゅーで」と「でスク」の造語が、やってみゅーでスクの名称の由来です。

担当の延田恵さんにお話を聞きました。

「地域では若者に手伝ってほしいとの要望がたくさんあります。自治会やイベント団体、行政などから『学生さんにこれを手伝ってほしい』と連絡があります。そこで私たちスタッフがガイドラインを基にお受けするかどうか判断。その後あらかじめ登録された学生に情報を提供します。そのなかで『やってみたい』と手を挙げた学生を紹介する、いわばマッチングが主な仕事です。特に東日本大震災以降、学生のボランティアに対する意識も変化して、積極的に社会の役に立ちたいという思いが強くなっているようです」。

ニーズと供給を「でスク」が間に入るこ

とでスムーズにつながっているんですね。これは文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムで『学生が自ら育む人間関係力醸成プログラム』として平成十九年に始まり、平成二十三年度からは大学独自の事業として継続。現在、登録している学生は二〇〇〇名以上。地域団体も三〇〇以上が登録、今ではすっかり定着しました。

「最近では、ただ要請を待つだけでなく、こちらから積極的に自主企画を提案しようという学生さんやサークルなども出てきました。『でスク』では、このような学生の自発的な社会貢献の提案を、様々な形でサポートしていきたいと思っています」と延田さん。

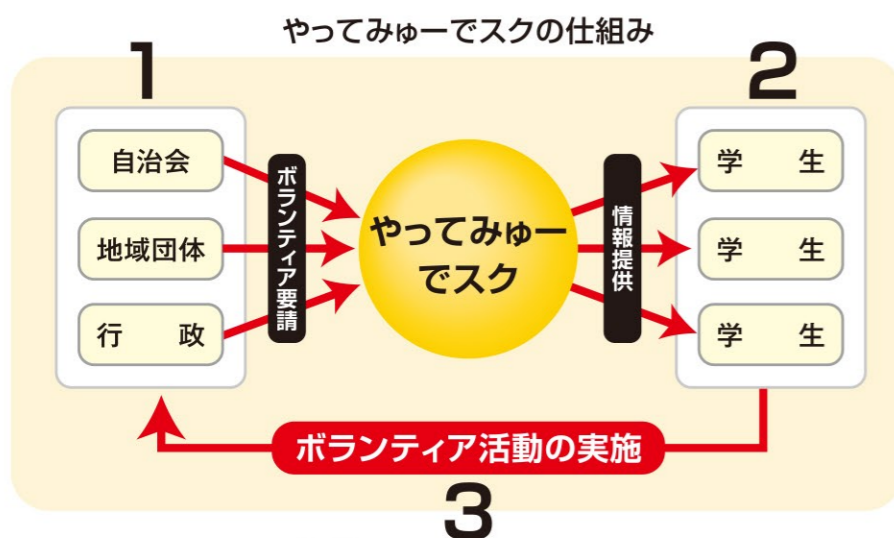
ちょうど、県が主催するながさき音楽祭「たのシツクフェスティバル」で、ロボットサークルが、子どものためのロボット体験を企画するというので取材しました。リーダーの中村亮太さんによれば、音楽イベントとの関連づけや、子どもが飽きないように説明の途中でもロボットを動かすなどの工夫をしたのだそうです。会場は大勢の子どもで賑わい、みんなロボットにすっかり夢中。一日で一五〇人の参加者が集まりました。

ボランティア活動による様々な分野での幅広い世代の人と交流した経験が、卒業後、社会人として活躍する自信へとつながればいいですね。



## 2 長崎大学の 地域貢献

# 祭りや施設のお手伝い、 「やってみゅーでスク」が マッチング



長大ロボットサークルによる体験イベントの様子。九州のロボットコンテストで入賞するほどの実力派のメンバーも、子ども相手にヒザを折って目線を揃えて一生懸命接していました。



スタートアップ説明会で附属図書館のサポーターについてのオリエンテーション。このような学内のボランティアも時折あります。

サポーターになると、自分の好きな本が購入できる選書ツアーにも参加でき楽しいですよ

図書館サポーターの工学部4年 結城卓也さん

# 学生主体の地域ボランティア